



目標—指導—評価の一体化のための学習評価 中学校国語のポイント



中学校国語における単元の学習評価について、単元の目標及び「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成から評価の総括までの一連の流れを具体的な事例をもとに説明します。

I 単元計画と評価規準の作成方法



【Step1】 単元で取り上げる指導事項の確認

「単元名」は、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが生徒にわかるように工夫しています。

単元名	内容のまとめり
新たに知った言葉を紹介する～聞き手を意識して話す～ 第1学年 A 話すこと・聞くこと	第1学年 [知識及び技能] (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 [思考力, 判断力, 表現力等] 「A 話すこと・聞くこと」

【Step2】 単元の目標と言語活動の設定

国語科は、言語活動を通して単元のねらいの実現を図る教科ですから、単元全体に一貫した言語活動を位置付けることが有効です。

1 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
[知識及び技能] (1) ウ
- (2) 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] A(1) ア
- (3) 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] A(1) ウ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
[学びに向かう力, 人間性等]

[学びに向かう力, 人間性等]に関する目標は、いずれの単元においても、当該学年の目標である「言葉がもつ～中略～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示します。

2 単元で取り上げる言語活動

新たに知った言葉を紹介する。

関連：[思考力, 判断力, 表現力等] A(2) ア

単元の目標を実現するために適した言語活動を学習指導要領の言語活動例を参考にして位置付けます。

【Step3】 単元の評価規準の設定

今回の改訂では、指導事項に示された資質・能力を確実に育成するため、基本的には、指導事項をそのまま評価規準とすることとしています。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1) ウ</p> <p>該当する指導事項を示すことで、学習指導要領の指導事項との関連を明確にしています。文末を「～している」として示します。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもあります。</p>	<p>①「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。A (1) イ</p> <p>②「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。A (1) ウ</p> <p>各領域において育成を目指す資質・能力を明確にするため、冒頭には当該単元で指導する一領域を「(領域名を入れる)において」と明記します。育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて作成することもあります。</p>	<p>①粘り強く (1) 表現を工夫し (3)、学習の見通しをもって (2) 新たに知った言葉を紹介しようとしている (4)。</p> <p>(1) 粘り強さく積極的に、進んで、粘り強く等) (2) 自らの学習の調整く学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等) (3) 他の2観点において重点とする内容 (特に、粘り強さを発揮してほしい内容) (4) 自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動を明確にしています。文末を「～しようとしている」として示します。</p> <p>単に活動しているかどうかではなく、(上記であれば「学習の見通しをもって」(2)) 設定した内容を言語活動を通して発揮しようとしているかどうかをみるのが重要です。</p>

【Step4】単元の指導と評価の計画の決定

4 指導と評価の計画 (全5時間)

各時間の具体的な学習活動を構想し、単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するのかを決定します。



それぞれの評価規準に基づいて評価するために、どのような方法で(何を)評価するのかを決めます。

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○「語彙手帳」(日頃から、新しく知った語彙を書き留めている手帳)などから、自分が友達に紹介したい言葉を決める。	[思考・判断・表現]①	ノート
2 ・ 3	○話し方の工夫について話し合う。 ○スピーチの構想メモを書く。 ○スピーチの練習を行う。	[主体的に学習に取り組む態度]①	観察 ノート
4 ・ 5	○スピーチの発表会を行う。 ○他の人のスピーチを聞いて新たに知った言葉と用例を「語彙手帳」に書く。	[思考・判断・表現]② [知識・技能]①	発表 ノート 語彙手帳

「単元の評価規準」と対応。

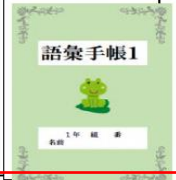
【Step5】評価の実際と手立ての想定

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見直しをもつ。 ○「語彙手帳」(あるいは書籍、教科書など)から、新たに知った言葉を紹介するという目的を踏まえて、候補とする言葉を選んだ理由・意味・用例・出会い・エピソードなどを整理しながら、友達に紹介する言葉を決める。	・新たに知った言葉を紹介するスピーチを2分程度で行うことを知らせる。各自で学習の進め方を考えることができるように、教師がスピーチのモデルを示す。 ・言葉を選ぶ際には、今回のスピーチの目的や場面、相手などにふさわしい言葉を考えさせる。	[思考・判断・表現]① ノート ・ここでは紹介する言葉を決め、目的や場面、相手などを考えて、その言葉に関するエピソードなどの話す材料を整理しながらスピーチの内容を検討しているのかを確認する。
2 ・ 3	○話し方の工夫について話し合う。 話し合いの中で話題になると予想される話し方の工夫 ◎相手の反応を踏まえる(繰り返す、問いかける、話題を変える、説明の仕方や言葉を変える) ・声量や声色 ・間の取り方 ・表情や身振り ・話の構成 ・相手の興味や関心をひく話題の選択 ・効果的な表現 など	・特に意識させたい「相手の反応を踏まえながら」表現を工夫するといった内容をスピーチで発揮できるように小学校から学習してきた話し方の工夫について想起させ、相手の反応を踏まえて話すにはどのようなことに気を付ければよいのかを生徒自身に確認させる。	設定した「単元の評価規準」について、実際の学習活動と照らして「Bと判断する状況」を具体的に想定することが極めて重要です。合わせて「C(努力を要する)と判断する状況への手立て」の例を想定します。
	○選んだ言葉が相手に分かりやすく伝わるように、どのような話の構成でスピーチをするのかを考え、ノートにメモする。 ○話す内容が決まったら別室に移動し、スピーチの練習を行う。 ○相手の立場に立って確認したり、友達にアドバイスを求めたりしながら、必要に応じてノートの内容を赤字で修正する。	・ノートには、話の構成や要点、話し方の工夫などを記入させ、読み上げるための原稿にならないように指導する。 ・別室にはタブレット端末数台と固定スタンドを用意し、生徒が自分のスピーチの様子を撮影し、自分自身でその様子を確認できるようにしておく(別室が用意できない場合は、教室の一角を練習コーナーにする)。 ・動画は、自分の確認だけでなく、友達に見せてアドバイスをもらう場合にも有効であることを伝え、効果的に活用させる。	[主体的に学習に取り組む態度]① 観察・ノート ・ここでは、練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしているのかを確認する。

<p>4</p> <p>5</p>	<p>○スピーチの発表会を行う。</p> <p>発表会の流れと注意点</p> <p>○6人グループで、スピーチを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手は、第2時で確認した話し方の工夫、特に「相手の反応を踏まえること」を意識してスピーチするよう心がける。 ・聞き手は、話し手が聞き手の反応を意識して言葉を変えたり、エピソードを加えたりするなどの工夫している点について、特に注意しながら聞く。 <p>○グループ全員のスピーチ終了後に、話し手・聞き手それぞれの立場から話し方の工夫について気付いたことを記入する。</p> <p>○聞き手は、新たに知った言葉とその用例を考えて「語彙手帳」に記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに、A3程度のホワイトボード等を用意し、話し手が自由に使用できるようにしておく(必要に応じて紹介する言葉を書いたり、友達に書いてもらったりするなど、様々な使い方が考えられる)。 ・振り返った内容について数人に発表させ、相手意識の重要性について確認させる。 ・以下の点について振り返らせることも考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> —話し手として、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫するために試行錯誤したこと。 —本単元で身についた力やできるようになったこと。 —本単元で意識したこと。 —今後の学習や生活の中で生かせそうなこと。 —工夫しようとしたが、十分ではなかったこと。など 	<p>[思考・判断・表現]② 発表・ノート</p> <p>・ここでは、実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて問いかけたり、発言を繰り返したり、説明の仕方を変えたりしているかを確認する。</p> <p>[知識・技能]① 語彙手帳</p> <p>・ここでは、スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入しているかを確認する。</p>
-------------------	---	---	--

II どのように学習を評価したのか <<本授業例における評価の実際>>



知識・技能①

評価規準

Bと判断する状況の例

語彙手帳とは・・・新たに知った言葉をいつでも書き留められるようにするため、常に携帯することを基本としています。語彙手帳に書かれた言葉を使用したら○印をつけ、使えるようにします。

敢行	用例: 周囲の反対を押し切って、世界一周の旅を敢行した。	友達のスピーチを聞き、「敢行」という言葉を新たに知り、語彙手帳に書き込みました。⇒B
潮時	用例: 今が新しいことを始める潮時だ。	これまで否定的な意味で使用していた「潮時」という言葉について本来の意味を知り、語彙手帳に書き込みました。⇒B
敢行	用例: 念のため敢行した。	用例として適切ではないため、「努力を要する」状況(C)と判断しました。言葉の意味を辞書等で確認させ、どのように用いるとよいのかを具体的な場面を想定して記入できるように指導します。
潮時	用例: 潮時だから仕方ない。	

生徒Yのノートの記述

① 由緒深い四字熟語がかっこいい。みんな知ってほしい。役に立つ言葉か。

○ 登竜門

中学生という節目にふさわしい。くじけそうな時に合った言葉なので知らせる価値あり。

・ 部活動の先生「ここが登竜門だ」

・ 登竜門の意味: 立身出世のための関門

・ 「登竜門」は中国の黄河中流の急流で、これを登った者は竜になるといふ言い伝えがある。

・ 中学校生活も人生の登竜門。初めてのテストも登竜門。

・ 難しい言葉を使うのが中学校生活への登竜門。

*1

*2

立身出世も新たな言葉? : 高い地位に就き、有名になること。

思考・判断・表現①

評価規準

「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(I)A)

Bと判断する状況の例

新たな言葉に気が付き、その意味を記述しています。その状況を「興味の広がり」と捉えました。⇒A

スピーチの目的や相手を考えて記述しています>(*1) また、エピソードを書き出して整理して記述しています>(*2) ⇒B

3

思考・判断・表現②

評価規準

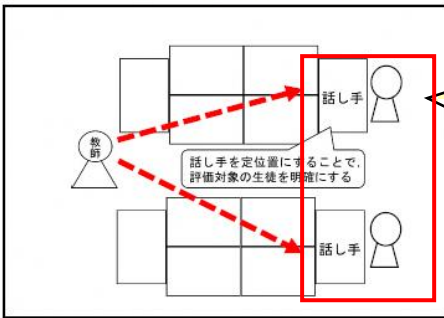
「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)

Bと判断する状況の例

ここでは、実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて、表現を工夫しながら話しているかを確認する。

※意図的な表現の工夫。
○練習での相手の反応やアドバイスによる変更を赤ペンで書きこむ。

【評価の効率化のための座席の工夫例】



音声表現の評価を効率的に行えるように、座席の配置を工夫しました。また、難しい漢字が使用されていたり聞きなれない熟語であったりする言葉を選んだ時に、ホワイトボードを補助的に使っていました。

B

相手や目的を意識して、表現を工夫している記述しています。

例えば、故事成語を紹介するためにホワイトボードに絵を書いて説明したが、終始絵を見ながら話してしまい相手の反応を確認できない場合等が、「努力を要する」状況(C)と判断した例として考えられます。このような場合には、タブレット端末等で録画して自分のスピーチを確かめるように指導し、次のスピーチや発表時に注意する点を確認します。

○挿読という言葉、知っていますか。
※聞き手を引き付けるため、聞きかけから入る。
○先日、父が電話口で「ハイドゥしました」と話していた。
※もっと友達に関心をもってもらいたい。

主体的に学習に取り組む態度

評価規準

粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを紹介しようとしている。

Bと判断する状況の例

ここでは、スピーチ練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしているかを確認する。

「粘り強さ」や「自らの学習の調整」をみる場合には、例えば、スピーチ練習を繰り返して表現の工夫を考えたり修正を加えたりしている姿や、表現の修正を行いながら発表会に間に合うようにスピーチを整えようとしている姿から見取ります。

Ⅲ 観点別学習状況の評価の総括

記録に残すものについては、単元の評価規準に基づき、「4 指導と評価の計画」に示した時間や学習活動のまとめりに、その実現状況を見ていきます。

「年間指導計画表」の例
(第1学年【思考力、判断力、表現力等】「A話すこと・聞くこと」の一部を抜粋)

No	単元名	指導事項・言語活動例			
		1	2	3	4
1	指導事項	○	○	○	○
2	言語活動例	○	○	○	○
3	指導時数	4	5	4	5
ア	音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。	◎			
イ	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を眺むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。				○
ウ	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して語や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。		◎		
エ	単語の類別について理解				○

省略

No	単元名	指導事項・言語活動例			
		1	2	3	4
ア	目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。		○		○
イ	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。		○	◎	○
ウ	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。		◎		
エ	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。		◎		
オ	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。			○	◎
ア	紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを受けて質問したり意見などを述べたりする活動。		●		●
イ	互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。		●		●
エ	(上記以外の言語活動)				●

本単元では、以下のような【評価メモ】を作成し、生徒の学習の状況を整理しています。「おおむね満足できる」状況(B)と判断する例(姿)と、「十分満足できる」状況(A)と判断するポイントの例を示しています。各評価の観点において、Bを満たした上で「Aと判断するポイントの例」のいずれかを満たしていればAとしています。

【評価メモ】

観点	[知識・技能]		[思考・判断・表現]		[主体的に学習に取り組む態度]	
	単元における評価	単元における評価	単元における評価	単元における評価	単元における評価	単元における評価
Bと判断する状況の例	①スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入しているか	②実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて、表現を工夫しながら話しているか	①紹介する言葉やその言葉に関するエピソードを、目的や場面、相手などを考えて整理しているか	②実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて、表現を工夫しながら話しているか	①練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしているか	②練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うようにスピーチを整えようとしている姿から見取ります。
評価の材料	・語彙手帳	・ノート	・発表	・ノート	・観察	・ノート
Aと判断するポイントの例	・速やかさ ・丁寧さ ・集団への寄与 ・興味の広がり ・応用・活用の意識 など					
生徒X	B	B	A	A	A	A
生徒Y	A	A	A	B	B	B

指導事項ア

指導事項ウ

[思考・判断・表現]については、単元における観点別学習状況の総括を行っています。「年間指導計画表」では、本単元で特に重点的に指導し評価する(◎で示してある)のは、指導事項ウです。そのため、「単元における評価」は「おおむね満足できる」状況(B)と総括しました。